

| | | |
|---|---|----|
| 年 | 組 | 名前 |
|---|---|----|

大分県は、2014年の県内人口動態統計(概数)を発表しました。

| 県内の人口動態統計 | 2014年 全国順位 | | 2013年 全国順位 | | 増減 |
|-----------|------------|-------|------------|-------|-------|
| | 出生数 | 9279人 | 16位 | 9605人 | 21位 |
| 合計特殊出生率 | 1.57 | 10位 | 1.56 | 13位 | 0.01 |
| 死亡数 | 14065人 | 32位 | 13874人 | 32位 | 191人 |
| 自然増減数 | ▲4786 | 28位 | ▲4269人 | 28位 | ▲517人 |
| 結婚件数 | 5391組 | 28位 | 5724組 | 22位 | ▲333組 |
| 離婚件数 | 2004組 | 24位 | 2179組 | 38位 | ▲175組 |

※2013年は確定値。合計特殊出生率を除く全国順位は人口千人当たりの率。▲はマイナス

昨年県の出生数、最少更新

県は10日、2014年の県内人口動態統計(概数)を発表した。出生数は前年に続き過去最少を更新。1人の女性が生涯に産む子供の推定人数を示す合計特殊出生率は2年連続で上昇した。死亡数が出生数を上回る「自然減」は16年連続となり、減少数は4786人と戦後最多だった。結婚件数も戦後最少となった。県福祉保健企画課は「子育て支援の充実などを図り、少子化の流れを緩和していきたい」とした。

【出生】出生数は9279人で過去最少だった前年より326人減少した。合計特殊出生率は0.01ポイント増の1.57で、全国10位。7年連続で1.5台を維持した。出産した母親の年代別で出生数をみると、40歳代と10歳代で前年を上回り、20〜30歳代で減少した。

【死亡と死因】死亡数は14065人で前年より191人増えた。死因別の1位はがん(27.3%)で、中でも肺がんが最多。2位は心疾患(14.6%)、3位は肺炎(10.2%)と続いた。乳児死亡数は21人で前年より3人増加した。

【結婚と離婚】結婚は5391組で前年より333組減った。平均初婚年齢は男性が30.5歳、女性が29.1歳。離婚は2004組で前年より175組減少した。

①「自然減」とは、どの数字からどの数字を引いた数に当たりますか。

.....

.....

.....

.....

②2014年の自然減は2013年に比べ、何人増えていますか。

.....

.....

.....

.....

③この表から読み取れる大分県の将来の姿はどういった姿でしょう。考えてみよう。

.....

.....

.....

.....